

令和7年度（2025年度）第2回 函館市企業局経営懇話会 会議録

【開催日時】 令和8年3月25日（水） 午後2時00分～午後3時10分

【開催場所】 函館市企業局庁舎4階大会議室（アクロス十字街）

【次第】

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 函館市上下水道事業経営ビジョンおよび函館市交通事業経営ビジョンの進行管理について
- 3 報告事項
 - (1) 令和8年度（2026年度）企業局各会計予算の概要について
 - (2) 郵便事業者の誤配による個人情報の漏えいについて
- 4 その他
 - (1) 南部下水終末処理場消化ガス発電事業について（補足説明）
- 5 閉会

【出欠状況】

■委員（出席13名）

（○は出席，敬称略）

所属団体	氏名	出欠	所属団体	氏名	出欠
公立はこだて未来大学	白石 陽	○	函館市町会連合会 東部地区協議会	川口 英孝	○
函館工業高等専門学校	山田 誠	○	函館消費者協会	森元 浩	○
北海道大学名誉教授	三浦 汀介	○	連合北海道函館地区連合会	黒瀧 浩二	○
北海道税理士会函館支部	福田 雄基	○	函館商工会議所	竹内 正幸	○
北海道電力ネットワーク株式会社	中村 信吾	○	函館水産連合協議会	布目 征康	—
函館市社会福祉協議会	佐藤 秀臣	—	函館地区バス協会	渡部 浩典	—
函館市女性会議	佐々木 香	○	函館湯の川温泉旅館協同組合	川崎 研司	○
函館市町会連合会	江頭 進	○	一般公募	山本 秀治	○

■事務局（出席23名）

手塚企業局長

- ・ 管理部 臼杵部長，兵庫次長，早瀬総務課長，両角経営企画課長，今野経理課長，杉澤料金課長，加藤収納・滞納整理担当課長，経営企画課4名
- ・ 上下水道部 伊藤部長，田原次長，川村管路整備室長，川尻計画担当課長，丹内建設担当課長，西谷浄水課長，加地終末処理場長
- ・ 交通部 高木部長，向出次長，湊電車事業課長，藤島施設課長

【会議発言概要】

1 開会

経営企画課長 本日は年度末でご多忙中のところ、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。
開会前ではございますが、佐藤副会長、布目委員、渡部委員におかれましては、所用により欠席されますことをご報告させていただきます。
なお、当懇話会の会議録につきましては、後日公表となりますことをご了承願います。
また、発言の際にはマイクをお使いいただきますようお願いいたします。
それでは、ただいまより令和7年度第2回函館市企業局経営懇話会を開会いたします。

2 議事

経営企画課長 次第2の議事でございますが、ここからの進行を三浦会長にお願いしたいと思います。
三浦会長よろしく願いいたします。

三浦会長 それでは次第2の議事でございます。
事務局から説明をお願いいたします。

経営企画課長 それでは、函館市上下水道事業経営ビジョン及び函館市交通事業経営ビジョンの進行管理について、経営企画課長よりご説明させていただきます。

<説明 資料1ページ>

三浦会長 ただいま事務局から説明がありましたが、各委員の方、ご質問等ございましたらよろしくお願
いいたします。
はいどうぞ。

川口委員 プロポーザルで公募したと思いますが、何件の応募があったのでしょうか。

終末処理場長 1件の事業者からございました。

川口委員 この事業は専門性が高く、点検業務を特定の事業者が一手に担っているとのことだが、これは
原子力発電所の点検と同様に、特殊であるがゆえに第三者の介入が困難であり、結果として電力
会社への全面的な依存につながっています。
先般、柏崎刈羽原子力発電所において点検報告の改ざん事例が発生したことを鑑みますと、す
べての業務を任せるとは適切ではないと考えます。
たとえ特殊な技術を要する分野であっても、重要な点検項目については企業局側でも再検証や
精査を行い、補完する体制を構築すべきです。特定の1社だけに依存する現状を改めなければ、
重大事故を招くことに繋がると思うが、この点について、どのようにお考えでしょうか。

終末処理場長 消化ガス発電につきましては、エンジンを用いた発電を行うため、エンジンメーカーに定期的
な点検や修繕を依頼する予定です。実質的に1社が継続して担うこととなりますが、本業務は特
定の業者でなければ実施できない性質のものではありません。この点について、ご理解をお願い
いたします。

三浦会長 よろしいでしょうか。
他にご質問等はございませんか。
はい、どうぞ。

白石委員 はこだて未来大学の白石です。
前回出席できておらず、これまでの経緯を十分に把握できていない部分があるため、何点か確
認させていただきます。
小水力発電設備に関し、製造会社と地元企業の役割分担について議論されておりますが、点検
整備を依頼するのはどこかと、地元企業に実質的な点検を依頼するのはどこか。また、製造会社
が北海道電力であるのか、あるいは市が関与しているのかについて、お聞きします。

浄水課長	はい、浄水課長よりお答えいたします。 製造メーカーへの点検整備については、企業局が発注しております。 また、巡視点検及び電気工作物の定期点検についても、同様に企業局が発注しております。巡視点検の内容としては、簡易測定器を用いて軸の振動や回転数等のデータを日々測定しております。その結果に基づき、メーカーによる開放点検や分解整備の時期等について協議の上、適切に実施しております。
白石委員	当該製造会社は、地元企業ではなく、国内の各地域において設備の点検を一手に担っている事業者が担当しているとの理解でよろしいですか。
浄水課長	本機器の点検は、製造メーカーである株式会社日立製作所が実施しております。同社が設置および点検整備を行っております。
白石委員	わかりました。 ダムの電力を賄う設備も点検が必要と思うが、それはまた別の業者が行うのですか。
浄水課長	新中野ダムにある、管理用の小水力発電かと思いますが、こちらの方は北海道が管理しております。
白石委員	ひとえにダムの設備と言っても、北海道管轄のものと違う管轄のものがあるということですね。 わかりました。ありがとうございます。 あと赤川高区は、うちの大学の近くにあるが、この390世帯ってというのは大体その赤川地区の世帯をカバーする程度ですか。
浄水課長	試算上はそのような世帯数となりますが、実際には北海道電力ネットワーク株式会社の送配電網を介することとなるため、広域的に利用されることとなります。
白石委員	ワット数から試算をされてるということですね。 最後にしますけど、南部下水終末処理場はどこにありますか。
終末処理場長	終末処理場長でございます。 大森浜側にある金堀町にございまして、競輪場ですとか、日乃出清掃工場、それから啄木小公園があるエリアになります。
白石委員	ごみ処理をするような施設の近くですか。
終末処理場長	ごみを焼却する日乃出清掃工場から500メートルくらい離れた場所に位置しております。
白石委員	わかりました。 ありがとうございました。
三浦会長	はい、よろしいですね。 他にございますか。 今に関係しますが、企業局の色々な施設の見学を以前は、委員の改選時に行っていた気がしますが。
経営企画課長	施設見学につきましては、水道週間や下水道の日の機会を捉え、企業局主催による小学生向けの見学会を実施しております。 また、各浄水場や南部下水終末処理場等の施設については、各施設へ直接お問い合わせいただくことで、見学が可能な場合があります。 先ほど会長からの経営懇話会委員を対象とした見学会につきましては、貴重なご意見として、今後の改選期等を見据え、必要に応じて検討・対応してまいります。
三浦会長	いろいろ見学させていただいたことがあったので、ちょっとお聞きしました。 他にございますか。 ご質問がないようですので、各経営ビジョンの取り組みについて懇話会として確認したということにしたいと思います。 次に、事務局から各経営ビジョンの進行管理に係る今後の流れについてのご説明をお願いいたします。

経営企画課長	<p>各経営ビジョンの進行管理に係る今後の流れについてご説明いたします。</p> <p>ただいま経営懇話会でのご確認をいただきましたので、企業局のホームページに、前回の懇話会で配付させていただいた資料のとおり公表させていただきますので、よろしくお願いいたします。</p>
三浦会長	<p>それでは本件について終了いたします。</p>
<h3>3 報告事項</h3>	
三浦会長	<p>次に、次第3の報告事項でございますが、(1)令和8年度企業局各会計予算の概要について事務局から報告をお願いいたします。</p>
経理課長	<p>経理課長よりご報告させていただきます。</p> <p><説明 資料2～4ページ></p>
三浦会長	<p>ただいま事務局から報告がございましたが、各委員の方、ご質問等ございましたらよろしくお願いたします。</p> <p>はい、どうぞ。</p>
黒瀧委員	<p>函館地区連合の黒瀧といいます。</p> <p>ただいま説明のありました各会計予算に関連し、災害時の給水活動における予算措置について質問いたします。</p> <p>先日、函館地区連合の春闘に関連する集会において、水道労働組合の職員より、能登半島地震の際の給水活動について報告がありました。現地に従事した職員からは、断水が長期化する中で給水車を待ち望む住民の切実な声を受け止め、水を届けることは住民の生活と命を支える根幹であること、そして迅速かつ確実な対応の重要性を改めて強く感じたとの話がありました。</p> <p>この経験を通じ、災害時に住民へ安全かつ確実に水を届けるためには、給水車を運転できる人材の確保・育成が喫緊の課題であるとの認識が示されました。現在、企業局が保有する給水車の運転には中型運転免許が必要ですが、若手職員の多くは普通免許のみを保有している状況です。年々、給水車を運転できる職員が減少しており、このままでは災害時の対応力低下が懸念されます。</p> <p>こうした課題は全国的にも生じており、中型運転免許の取得を公務として位置付け、取得費用を公費で負担する自治体も増加しております。函館市企業局におかれましては、本課題について労働組合と協議を進める中、中型免許を必要とする車両業務の委託や、普通免許で運転可能な小型給水車の検討を進めておられると伺っております。一方で、中型免許取得費用の公費負担制度の創設については、現時点では慎重な姿勢であると承知しております。</p> <p>しかしながら、災害時の給水活動は住民の生命と生活を守るために不可欠な公共サービスであり、平時から必要な人材を計画的に確保・育成することは行政の重要な責務です。</p> <p>そこで、給水車をはじめとした中型免許が必要な車両を運転できる人材の確保・育成、及びそれらに対する予算措置について、現時点での当局のお考えと今後の対応についてお聞かせください。</p>
上下水道部次長	<p>上下水道部次長の田原でございます。</p> <p>ただいまのご質問につきまして私の方からお答えしたいと思います。</p> <p>委員のご指摘の通り、平成29年の道路交通法改正により、準中型以上の車両を運転するには、従来の普通自動車免許に加え、新設された準中型免許等の取得が必要となりました。</p> <p>企業局においても、給水運搬車や作業トラックなど、準中型以上の車両を業務で使用しております。当面は現行の職員の保有免許で対応可能と考えておりますが、将来的には職員の定年退職等に伴い、これらの車両を運転可能な免許を有する職員の減少が見込まれます。</p> <p>このため、現在、関係職員を中心に、使用車両の小型化、運転業務の委託化、公費による免許取得支援制度等について検討を進めており、来年度中を目途に今後の方向性を整理する予定です。</p> <p>以上です。</p>

黒瀧委員	<p>ご答弁についてはご理解をいたしました。</p> <p>いずれにいたしましても、災害時の給水活動は住民の生命と生活を支える重要な公共サービスであります。そのため、今後の体制整備に当たりましては、現場の実情や職員の声も十分に踏まえ、給水活動の質が維持・向上されるよう丁寧にご検討いただくとともに、その実現に向けた十分な予算措置を講じていただきますようお願い申し上げます。</p> <p>また、労働組合との協議の実情や制度検討の進捗状況につきましても、今後このような機会を通じて確認させていただきたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。</p>
三浦会長	<p>よろしいですね。</p> <p>それでは他にご質問ありますか。</p> <p>はいどうぞ。</p>
白石委員	<p>ご説明ありがとうございます。</p> <p>はこだて未来大学の白石です。</p> <p>上下水道事業及び交通事業について、それぞれ質問いたします。</p> <p>まず、上下水道事業について資料2ページの支出のうち、建設改良費が大きな割合を占めており、経営ビジョンに掲げる計画値と比較すると、予算額はほぼ同水準となっております。この点を踏まえ、前年度と比較した増減について伺います。</p> <p>また、近年の予算執行状況として、毎年度どの程度の金額を建設改良費として計上しているのか、その推移を確認させてください。</p>
経理課長	<p>経理課長よりご回答いたします。</p> <p>建設改良につきまして、昨年度の建設改良費は30億2,800万円、令和8年度は27億円であり、ほぼ同規模となっております。</p>
白石委員	<p>建設改良費の内訳を拝見したところ、配水管の整備に多額の費用を要しており、一方で、下水道の建設改良費は比較的少額であるため、上水道と下水道の建設改良費において、これほどの金額差が生じる理由と施設の点検・保守等のメンテナンス費用は、予算上のどの項目に計上されているのかをお聞きしたい。</p>
建設担当課長	<p>まず、建設担当課長より、お答えさせていただきます。</p> <p>管路の更新につきましては、水道管と下水管に分けられます。水道管においては、歴史が古く老朽化が進んでいることから、耐用年数を60年と見込んで更新を行っております。</p> <p>一方、下水道管においては、更新時期に達していない管路が多いため、低い水準にとどまっております。建設改良費における更新経費は、現時点では少額に抑えられております。今後、更新対象は増加する見込みです。</p> <p>続いて、維持管理費につきましては、経理課長より報告いたします。</p>
経理課長	<p>維持管理費用についてでございますが、収益的支出の物件費の中に修繕費として計上されております。</p> <p>以上でございます。</p>
白石委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>物件費も金額が少々大きいと思っておりました。</p> <p>この物件費の中で修繕費はどれくらいの割合を占めてるのか。</p> <p>また、物件費には、どのような経費が計上されるのかお聞かせいただきたい。</p>
経理課長	<p>物件費の主な経費としては、修繕費や委託費、あとは消耗品費になります。</p> <p>修繕費が物件費に占める割合は資料を持ち合わせておりません。</p>
白石委員	<p>ご説明ありがとうございます。</p> <p>耐用年数を考慮すると、今後は下水道事業においても、点検維持費や建設改良費の増加が見込まれると理解いたしました。ありがとうございます。</p> <p>関連して一点伺います。</p> <p>資料の予定量の項目において、年間総輸送人員および平均輸送人員が前年度比で3.8%増加しております。利用者が増加すれば、乗車料金収入も連動して増加するものと理解しておりますが、実際の収入状況と照らし合わせて、今回の増員が収入増に寄与しているのか、改めてご教示いただけますでしょうか。</p>

経理課長	<p>経理課長より回答いたします。 運輸収益につきましてのご質問でございます。 運輸収益については、昨年12月に電車運賃を改定いたしました。これにより、運賃収入は増加しております。 業務量についても過去の実績に基づき積算しておりますが、令和8年度は増加する見込みです。</p>
白石委員	<p>予算の前提として、値上げにより利用者が増加した場合、収益はさらに拡大するということですね。 値上げに伴い利用者が減少する懸念はないのでしょうか。</p>
経理課長	<p>値上げを12月に実施しましたので、動向等を分析してる最中でございます。</p>
白石委員	<p>わかりました。</p>
三浦会長	<p>よろしいですか。 はい。</p>
川口委員	<p>2ページの資料において、温泉の1日の供給量は前年比で増減なしとされているが、市内では新築ホテルの建設が相次いでいると認識しております。 供給量が横ばいであるということは、これら新築ホテルについては、温泉ではなく、沸かし湯という理解でよろしいでしょうか。</p>
上下水道部 管路整備室長	<p>管路整備室長よりお答えいたします。 湯の川温泉における企業局が供給する新設につきましては、現在、供給量を制限していることから、認めていない状況でございます。 以上でございます。</p>
川口委員	<p>函館駅前のホテルは、どうなっているのですか。</p>
上下水道部 管路整備室長	<p>駅前の方に関しては、温泉の許可は市の保健所が窓口となり、北海道が許可をすることになりますので、北海道の許可を得て、各自で温泉を掘っております。</p>
川口委員	<p>そうすると源泉の保有量は、管理できないと思いますが、どうなのでしょう。</p>
上下水道部 管路整備室長	<p>湯の川地区の企業局が供給する源泉量に関しては、監視しております。</p>
三浦会長	<p>よろしいですか。 他のにご質問はございますか。 はいどうぞ。</p>
福田委員	<p>税理士の福田です。 予定貸借対照表について質問させていただきます。 まず、資産・資本合計における利益剰余金についてです。これは基本的に内部留保として積み立てられ、収益の増減に応じて変動するものと認識しております。 水道事業に関しては、収益的収入と収益的支出の差額が約1.1億円であり、概ね収支均衡していると見受けられます。一方で、3ページの公共下水道事業は比較的収益性が高い状況です。 しかし、公共下水道事業の予定貸借対照表を確認すると、流動負債が約46億円に対し、流動資産は約33億円となっており、短期的な資金に約13億円の不足が生じているように見受けられます。この不足を補うために収益重視の予算編成がなされているものと推察しますが、貸借対照表上の数値を見る限り、資金繰りが円滑に進むのか懸念を抱いております。流動負債に含まれる企業債の借り換え等により、実質的に長期債務として管理していく方針であれば運用可能かと存じますが、当局の見解を伺いたいです。 4ページの交通事業についても、流動負債と流動資産の差額が約2億円となっており、収支状況は厳しいと見受けられますが、下水道事業と比較すれば規模は小さいので、下水道事業の方が気になりました。</p>

経理課長	はい。 経理課長より、回答いたします。 下水道事業については、企業債の償還のピークを越え、今後は安定した経営が見込まれます。 単年度収支に変動はあるものの、長期的には安定した経営が見込まれる状況でございます。
福田委員	結構厳しい貸借対照表に見えたので質問させていただきました。
三浦会長	よろしいですか。 他にご意見ご質問ございますか。 はいどうぞ。
中村委員	北電ネットワークの中村です。 ご説明ありがとうございます。 2ページの水道事業と3ページの下水道事業について伺います。 資料右上のビジョンとの比較表を拝見しましたが、水道・下水道ともに、当該ビジョンで見通していた収支と大きな乖離はなく、予算編成がなされていると受け止めました。 一方で、当該ビジョンは令和8年度を最終年度としていたと記憶しております。今回の水道事業の予算では、約5億円の財源を取り崩すことで収支を均衡させる構図となっており、単純計算では5年後には資金が枯渇するようにも見受けられます。ビジョンの見通しにおいては、基本的な料金体系も見据えて検討を進めるというまとめであったと記憶しております。 現時点で、本予算編成にあたり見通されている事項はあるか。また、今回の予算がビジョンとの大きな乖離なく編成されているという認識で相違ないでしょうか。
経営企画課長	はい。 経営企画課長よりお答えいたします。 現行の経営ビジョンにつきましては、中村委員ご指摘のとおり、令和8年度をもって計画期間が終了いたします。 現ビジョンは、水道事業・下水道事業ともにビジョンと比較して良好な状態で終了できる見込みです。 また、令和9年度以降の次期経営ビジョンにつきましては、現在、鋭意策定を進めております。 改めて詳細をご説明いたしますが、改選後の委員の皆様には、次期ビジョンの素案からご確認いただき、その中で今後の10年間の財政計画についてご説明申し上げます。 その際は、何卒よろしくお願い申し上げます。 以上でございます。
中村委員	はい。 ありがとうございます。 もう1点確認させていただきます。 表の下から3行目、網掛け部分の当年度財源過不足額についてですが、人件費や物価高騰の影響とのご説明があったかと存じます。 この件に関し、計画通りの工事を実施した結果、費用が増大したのか。または、物価高の影響により、予定していた工事が実施できず先送りとなったのか。をお聞かせください。
建設担当課長	建設担当課長の方からお答えさせていただきます。 計画に基づき事業を進めておりますが、入札不調により業者選定が難航したことがございました。しかしながら、概ね予定通り進捗しております。 また、資材価格の高騰につきましても、現時点では入札差金の活用等により対応できております。今後は、さらなる価格変動も見据えた予算措置を検討する必要があると考えております。 以上でございます。
中村委員	はい。 ありがとうございます。
三浦会長	その他の委員の方ご意見ございますか。 よろしいですか。 それではご質問がないようですので、(2)の郵便事業者の誤配による個人情報漏えいについて事務局から報告お願いいたします。

収納滞納整理 担当課長	<p>それでは、資料の5ページから7ページまでになります。</p> <p>昨年の11月、12月に判明しました3件の郵便事業者の誤配による個人情報の漏えいについて、収納滞納整理担当課長から一括してご報告いたします。</p> <p><説明 資料5～7ページ></p>
三浦会長	<p>はい。</p> <p>ただいま事務局からの報告ございましたが、各委員の方ご質問等ございますでしょうか。</p> <p>はい、どうぞ。</p>
白石委員	<p>内容の確認なんですけど、3番目の項目の本市の対応というところで、経過の説明および謝罪を行ったのは郵便事業者であり、その対象は誤配送で受け取った方ではなく、個人情報を漏えいされた本人であるという認識で相違ないですか。</p>
収納滞納整理 担当課長	<p>郵便事業者の方が、本来郵便物が届く方に、謝罪をしたということです。</p>
白石委員	<p>表現が曖昧であり、意図が不明瞭なので、より分かりやすく記載した方がよろしいかと思えます。</p> <p>謝罪の対象が不明瞭であったため、事実確認をさせていただきました。</p> <p>あわせて、本件と同様の事例は、例年発生しているものでしょうか。</p>
収納滞納整理 担当課長	<p>当局としても、明確に原因ははわからないのですが、郵便事業者の方に伺ったところ、郵便事業者の方の不注意が原因ということです。</p>
白石委員	<p>これまでの会議でもありましたでしょうか。今年3件あったことが不思議だと思っています。</p>
経営企画課長	<p>経営企画課長です。懇話会へのご報告につきましては、前回も同様の案件があり、前回の懇話会においても3件の報告を行っております。</p> <p>企業局のみならず市全体においても、このような事例が多発している状況です。そのため、市全体として郵便事業者に対し、今後一層の注意喚起を行う旨を報告しているところでございます。</p>
白石委員	<p>わかりました。</p> <p>3件については、難しい問題であると考えております。特に5ページの案件ですが、共同住宅については、最近では表札を出さないケースや、郵便受けが1階に集約されている状況が多く、誤配が生じやすい環境にあると感じています。</p> <p>これについては、郵便事業者への改善要請のみで解決できるものか、分析が必要な難しい問題であると考えます。</p>
三浦会長	<p>はい。</p> <p>よろしいですね。</p> <p>他にございますか。</p> <p>ご質問ございませんようですので、本件については終了したいと思います。</p>
4 その他	
三浦会長	<p>それでは次に次第4のその他になりますが、事務局から報告事項があるということで、報告をお願いいたします。</p>
経営企画課長	<p>はい。</p> <p>事務局からご報告をさせていただきます。</p> <p>(1) 南部下水終末処理場消化ガス発電事業についての補足説明をさせていただきます。</p> <p>本件は、前回の経営懇話会でご質問いただいた赤川高区浄水場における小水力発電の売電事業との比較について、担当課長より改めてご説明申し上げます。</p>
終末処理場長	<p>終末処理場長よりご説明をさせていただきます。</p> <p>前回の懇話会において、発電量は250万キロワットアワーであると説明いたしました。その際、具体的にどの程度の世帯数を賄えるのかという点について不明確な部分があったので、小水力発電と比較した資料を作成いたしました。</p>

<説明 資料8 ページ>

三浦会長 はい、どうもありがとうございます。
ただいま事務局から説明がございましたが、何か委員の方々からご質問ありましたらどうぞよろしくお願ひいたします。
はいどうぞ。

山田委員 どうもありがとうございます。
備考欄の1世帯あたりの発電消費量3697キロワットアワーということなんですが、これは年間の消費量ということでしょうか。

終末処理場長 年間です。

山田委員 この細かい値というのは何か意図はあるのでしょうか。

終末処理場長 環境省の令和4年度調査の結果ということで数字を細かく記載しています。

山田委員 これが平均値ということなんですね。

終末処理場長 はい、そうです。

山田委員 はい、わかりましたありがとうございます。

三浦会長 他にこの件に関しまして、ご意見ありますか。
はいどうぞ。

白石委員 未来大学の白石と申します。
本件、補足資料8ページの小水力発電については、他の浄水場やダム等への展開予定があるのか、また、そもそも設置が可能なのかについて伺いたい。

浄水課長 はい。
浄水課長の方からお答えいたします。
今回整備した箇所は、高低差100メートルを有しております。これは、現在函館市が管理する浄水場と水源の関係において最大であり、採算性が確保できることから整備に至ったものです。
一方、他箇所においては高低差40メートル程度の事例も存在します。これらは採算性の確保が課題となりますが、技術開発の進展も著しいため、動向を注視しつつ、今後の整備について検討してまいります。

白石委員 大規模な施設を集中させるよりも、小規模な設備の方が点検や維持管理が容易であると考え、これらを函館市内に分散配置することで、市内の電力需要を補完できるのではないかと思ひ質問いたしました。
現状では高低差100メートルを確保できるのは赤川高区のみということですね。
ありがとうございました。
期待しております。

三浦会長 他にご意見ございますか。
特にないようでしたらこの件については終了したいと思います。
その他事務局の方からございますか。

経営企画課長 はい。
最後に事務局よりご連絡申し上げます。
先ほど申し上げましたが、次年度は経営懇話会委員の改選期となります。来月、改めて各団体および委員の皆様へ、委員のご推薦をお願いに伺う予定です。その際はご協力のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。
また、これまで様々な視点から多大なるご意見をいただき、進行管理をいただいております上下水道事業経営ビジョンおよび交通事業経営ビジョンにつきましては、計画期間が平成29年度から令和8年度までとなっております、次年度が計画最終年度となります。
現在、令和9年度以降の各事業の目指すべき方向性を示す、次期経営ビジョンの策定作業を鋭意進めているところです。令和8年度の改選後の懇話会におきまして、新たな経営ビジョン案についてご意見をいただく予定ですので、その際はよろしくお願ひいたします。

三浦会長 ありがとうございます。
それでは、各委員から他に何か。
はいどうぞ。

白石委員 はこだて未来大学の白石です。度々すみません。
前回の懇話会を欠席しており、不勉強な点から不適切な質問をしてしまったかもしれません。
申し訳ございません。また、丁寧にご説明いただきありがとうございます。
全体を通し、防災に関することは重要だと思うのですが、12月に大きな地震が発生した際、函館では上下水道や路面電車の軌道等に被害はありましたでしょうか。また、それに対して復旧・メンテナンス等の対応が必要となった箇所がありましたか。特段の被害がなければ、よろしいのですが。

経営企画課長 はい。
経営企画課長よりお答えします。昨年12月の地震の際には水道施設、下水道施設と交通の軌道施設等々に関しまして、大きな被害等はございませでした。
以上でございます。

白石委員 インフラの強靱性が確保されていることは、市民の安心感に繋がるので、確認できて有意義であったと考えます。

三浦会長 はい、よろしいですね。
他の委員の方は、何かございますか。
特に発言ないようですので、本日の会議日程は以上ということで、この先は事務局の方に進行をお返ししたいと思います。

7 閉会

経営企画課長 はい。
三浦会長ありがとうございます。
以上で本日の日程はすべて終了となります。
本日の会議録につきましては、この後事務局にて案を作成し、後日、委員の皆様へ発送させていただきます。ご確認いただく形で作成して参りたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。
それでは最後に先ほどの報告でも若干触れさせていただきましたが、委員の皆様におかれましては、任期が令和8年5月31日まででございます。
現在のところ任期中の会議の開催予定がございませんので、今回は最後の開催となる見込みでございます。
よろしければ三浦会長から一言お願いしたいのですが。

三浦会長 それでは私から一言ご挨拶申し上げます。
現状の委員の皆様にはこの約2年間になりますが、献身的に会議に参加していただきまして、私も非常に助かったなという感想でございます。
会長職を無事に勤めることができたのも、ひとえに委員の皆様のご協力のたまものと深く感謝申し上げます。
皆様本当にありがとうございました。

経営企画課長 三浦会長、佐々木副会長、そして委員の皆様には大変お世話になりました。
閉会にあたりまして、企業局長からご挨拶をさせていただきたいと思っております。

企業局長	<p>それでは私から一言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>皆様におかれましては、これまで函館市企業局経営懇話会の委員といたしまして、様々な視点から、私ども企業局の事業運営に対するご意見などを賜り、厚く御礼を申し上げます。</p> <p>誠にありがとうございました。</p> <p>この2年間、企業局におきましては、健全な経営を目指し、安全安心なサービスを提供するため、上下水道及び交通事業経営ビジョンに基づきまして、各種施策を実施してきたところでありましたが、人口減少や老朽施設が増加するそして頻発化激甚化する自然災害への対応など、企業局の事業運営を取り巻く環境は大変厳しい状況が想定されるところでございます。</p> <p>そうした環境下にあっても、企業局一丸となって経営ビジョンで掲げます、基本理念の実現に向けまして、各種施策に取り組んで参りたいと考えておりますので、皆様には、今後におきましても、それぞれのお立場から、企業局の事業運営に対しまして、ご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>誠にありがとうございました。</p>
経営企画課長	<p>それでは以上をもちまして、令和7年度第2回函館市企業局経営懇話会を閉会いたします。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>